

2月7日（月）

「与えること」イコール「喜び」

聖書朗読 マルコ12：41～44

ひとりひとり、いやいやながらではなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます。

Ⅱコリント9：7

2022年2月7日～2月13日

翻訳 ハンコック・真由美
(コールドスプリングスキリストの教会)

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

私は人をうまく操ったり お世辞を言ったりして物を手に入れるような育ち方をしています。いつももらう側でした。あげる側ではありませんでした。「受けるよりも与える方がさいわいです」（使徒の働き20：35）という聖句を長年聞いてきました。しかし、それが本当だとは実感しませんでした。。

クリスチャンになった後は、人にお世辞を言ったりして物をもらうことはやめました。お返しする術を知りませんでした。5年ほど前に、友人が自分で出版した本を送ってくれました。その中の章のひとつの題名は、Ⅱコリント9：6から「多く蒔く者、少なく蒔く者」でした。私はその章を5回読みました。そして、主がどのように「与える」ということを理解し、事実を認めたくはなかったのですが納得しました。パウロは「種を蒔く」という言葉を、「与える」という意味に、「収穫」を与えた人に返ってくる「祝福」という意味に使っています

神様の御国のために私が人に与えるという主への働きをした時、かつて経験したことのないすばらしい感情が湧き上がるのを覚えました。喜びと満足感と充足感を感じたのです。これらの喜びと充足感は困難な状況から立ち上がるのを助けてくれますし、良き知らせを伝え、貧しい人を助ける（箴言19：17）という神様の仕事に集中するのを助けてくれます。私たちがどんなに持っていても持っていなくても、喜んで分け与えれば、あなたは圧倒的な祝福を経験することになるでしょう。（箴言11：25）

讃美歌 Ⅱ26

祈り 親愛なる天の神様。あなたは、ありとあらゆる祝福、完全な贈り物をくださった方です。喜びの心を持って与える人にしてください。イエス様のお名前で祈ります。アーメン。

ロン・グロス

コロラド州 キヤノンシティ

2月8日 (火)

私はつまずかない

聖書朗読 14:22~31

私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようとキリスト・イエスが捕らえてくださったのです。
ピリピ3:12

本日の聖書朗読箇所最後の部分で、ペテロと他の弟子たち全員がイエス様のために死ぬことも厭わないし、決して裏切ることはないと強く主張しました。しかし、まさにその夜ペテロはイエス様を3度拒否したのです。他の弟子たちは、ゲッセマネの園で見張りをする代わりに眠りこけてしまい、イエス様を弁護することも全くなく、その時が来た時にイエス様のために死のうという気を全く見せることはありませんでした。

さて、私たちはどうすればいいのでしょうか？私たちはペテロや他の弟子たちより強いのでしょうか。私たちの信仰はペテロより強く、私たちの愛はヨハネよりも強いのでしょうか。「あなたがたはみな、つまずきます。」(マルコ14:27)とイエス様は言われましたが、それは弟子たちだけでなく 私たちにも言われたのです。

イエス様は弟子たちの心をご存知でしたし、私たちの心もご存知です。イエス様は私たちが頑張って強いようとしてもつまずいてしまうことをご存知なのです。自分が何歳であっても イエス様とのどんな経験があろうとも、誰でもイエス様から顔を背けて 自分の知恵に頼り、リーダーであるイエス様を無視してしまう時があります。イエス様と強く繋がっていたパウロでさえも、いかに日々イエス様と共に生きるかを捕らえようと追及していたのです。

つまずく者として申し上げますと、イエス様が私を導き、愛し、道を備えてくださると言われましたことが嬉しいのです。その道の後を神様の強さ、神聖さ、愛を追求しながらついて行こうと思います。

讃美歌 II 37

祈り 最も親愛なる神様。義の道に私を導くためにひとり子を送ってくださり、私がつまずく時に起き上がらせてくださいましてありがとうございます。

イエス様のお名前でお祈りいたします。アーメン。

ジェス・ピーターソン
テキサス州 ラボック

2月9日 (水)

静かな信頼

聖書朗読 マルコ14:53~65

彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。
イザヤ書53:7

私は最近ニューメキシコ州の山に行き、そこで静寂さを思い出しました。私たちは、常に何らかの騒音や動きがある慌ただしい世界で生きています。そういうものが意味のあるもので人生に満足を与えてくれるものだと思います。私たちは神様を証しするものとして語り、行動し、他の人たちの必要に答えていこうと努めています。ただ沈黙するのは時として難しいことです。

イエス様は嘲られ、唾を吐かれ、嘘の証言をされ、最終的には死と向き合うことになったのにも関わらず、怒りの言葉も 発せず叱ることもせず沈黙を守っていたことが どんなに困難なことであったかは想像もつきません。イエス様の沈黙は、神様への信頼から来る自信と強さを物語っています。

場が静かになり自分の言葉でどうにかしようとする時、イエス様の沈黙を思い出してみましよう。聖書を回想する静かな時間を持ち、神様の愛と犠牲を思い出していると、誰かとそれを分かち合う時に、毎回私たちの言葉や対応がより意味を持つものとなります。私たちのための神様のお手本がここにあります。神様の沈黙は多くを語っているのです。

讃美歌 304

祈り 親愛なる神様。あなたを信頼し、人生で直面するあらゆる事にいちいち反応しない勇気をください。

イエス様のお名前を通してお祈りいたします。アーメン。

ロドニー・トーマス
テキサス州 ラボック

2月10日 (木)

闇の中の光

聖書朗読 マルコ15:33~41

私たちの先祖は、あなたに信頼しました。彼らは信頼し、あなたは彼らを助け出されました。
詩篇22:4

最近友人がこのような話をしてくれました。彼の叔父が感染力の強い病気で入院し回復している間に受けた検査で肝臓にある腫瘍が見つかったというのです。早期に発見されたことで無事に手術を受けることができました。入院することがなかったら、腫瘍の発見は遅れ、命に関わる事態になっていたことも予想されます。入院したことで、命が救われたのです。暗闇から素晴らしいことが起こり得るのです！

イエス様は十字架に架けられ、絶え間のない痛みを味わい、侮辱を受けました。人類の歴史上最も暗い時間でした。神の御子が、死に向かい「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」と叫ばれたのです。彼は息を引き取られ、希望が消えたように見えました。しかし、ご存知のようにそれは始まりに過ぎなかったのです。このゾッとするような瞬間に人類への希望が生まれたのです。イエス様はたったの3日後に堂々とよみがえり、光と希望を人類にもたらしてくれました。この時、神殿の幕が破れ、イエス様は神様と私たちを遮る仕切りを取り去ってくださったのです。

偽りなく、闇の中から驚くほどのことが生まれてきたのです！

讃美歌 385

祈り 親愛なる神様。十字架の力を決して忘れることがありませんように。夜の暗闇が昼間の明るさになるということを決して忘れることがありませんように。イエス様のお名前を通してお祈りいたします。アーメン。

テリー・ピーコック
テキサス州 ラボック

2月11日 (金)

偉大な信仰

聖書朗読 ルカ7:1~10

私たちはそのために労し、また苦心しているのです。それは、すべての人々、ことに信じる人々の救い主である、生ける神に望みを置いているからです。

Iテモテ4:10

ジョーが初めて海を見たのは50代になってからでした。海の前に立ち、彼はただただ感動するばかりでした。彼は圧倒されました。匂い、波、音、そして、海を持つ水量は彼が今まで見てきたものとは桁違いでした。

信じがたいことですが、私たちの救い主が畏敬の念を覚えたことがありました。イエス様が見たり聞いたりしたことで、それほど驚嘆したことがあるのでしょうか。イエス様を驚嘆させたのは百人隊長でした。人の上に立つ立場であるこの男性は、自分のしもべを癒してくれるようにユダヤ人の長老たちをイエスのところに送ったのです。

イエス様が驚嘆した理由はなんだったのでしょうか。この男の人が地域へ多大なる奉仕をしていたことでしょうか。軍隊での彼の位の高さでしょうか。

それは、彼の信仰でした。彼は、人間の世界の地位に関係なく、イエス様に信頼し謙遜であることでイエス様のみもとに行くことができると理解していました。

この話は他の人に前で自分の信仰を輝かせようということを思い出させてくれます。私たちが自分の人生を完璧に生きることのできない中、私たちはイエス様を見る必要のある世界で自分の信仰を見せることができるのです。

今日あなたが為すこと全てで信仰に生きて、キリストの光になりましょう。

讃美歌 271

祈り 親愛なる神様。私の生活の全てに関わってくださってありがとうございます。本当に祝福されています。いつも私たちの心にあなた様の存在を覚えることができますように。誰かを助ける機会を心に留めることができますように。イエスさまのお名前でお祈りいたします。アーメン。

ポール・ダーティ
テネシー州 ナシュビル

2月12日(土)

子どもの目で見ると

聖書朗読 ルカ10:16~24

子どもたちを、わたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国はこのような者たちのもです。 マルコ10:14

もう随分前になりますが、妹に自分の悩みを打ち明けたことがありました。彼女はその日素晴らしいアドバイスをしてくれました。しかし、その時のアドバイスを今話すわけではありません。ポイントは、私の「年下の妹」が、それほど経験もないのにも関わらず 私が腰を低くして聞くほどの知恵を語ってくれたということです。

今日の聖書朗読の箇所です。弟子たちは自分自身や自分の持っている能力に満足していました。弟子たちは悪霊を追い出したことや神様の御名で奇跡を行なったことを自慢げに話していました。しかし、イエス様は彼らに再び自分自身を見詰め直すように迫ったのです。イエス様は弟子たちに権威をお授けになりましたが、どんな力も神の国にいること以上に偉大ではありません。

イエス様は神様に「これらのことを、賢い者や知恵のある者に隠して、幼子たちに現わしてくださいました。」(マタイ11:25)と感謝しました。

正式に聖書を学んだ者でなくても神様の善や完全なる意志を私たちが理解できることを感謝したいと思いませんか。神様のみことばによっていつでも私たちは祝福されています。また、この世界で神様の良き働きを見ることができるのは感謝なことです。

讃美歌 463

祈り 親愛なる神様。あなた様がお造りになったこの世界で私たちに毎日祝福をくださいましてありがとうございます。子どものような心でこの世界を見ることができるよう。

イエス様のお名前によってお祈りいたします。アーメン。

ロナ・プライベート
テキサス州 ラボック

2月13日(日)

あなたの魂を売らないように

聖書朗読 ルカ12:13~21

「これから先何年分もいっぱい物が貯められた。…」しかし神は彼に言われた。「愚か者。お前のたましいは、今夜おまえから取り去られる。」

ルカ12:19~20

ビルの最上階の角部屋に事務所を構えるために、「自分の魂を売る」人がいることでしょうか。彼らは、成功者となり有名雑誌の「最も影響を与えた人」のリストに入るのを最大の目標にしています。その地位のためならなんでもします。そのためにはどんな犠牲も厭わないのです。

イエス様は、あるお百姓の例え話をされました。そのお百姓は畑が豊作で、自分の財産を蓄え、長期に渡る豪勢な生活の計画を立てたのです。現在で考えると、この人は私たちの文化の中では実用的で堅実な人だとされ、働き者で尊敬され羨ましがられて賞賛されるでしょう。彼は所有する能力にはたけていたものの、管理する能力を欠いていたことが弱点でした。お金持ちになりたいという情熱で彼の人生は独占されていました。彼は自分の将来をコントロールすることができたと思い、保障されたと思いました。彼は自分の保障を神様ではなく自分の蓄えに求めたのです。

イエス様は、この人に名前をつけませんでした。ただ、「ある金持ち」としか呼んでいません。彼はただ「金持ち」という表現しかされていません。彼は金持ちではあったものの、愚か者でした。彼はあと何年も生きられると思っていましたが、実際のところ1日さえも生きることができませんでした。「あと何年も」は「たった一晩」に変わってしまいました。今日 自分が与えられているものの中でどのように神様に仕ええるのかに焦点を当ててみましょう。

讃美歌 451

祈り 主よ。あなた様が私たちのために何を犠牲にしたのかを知っています。あなた様に従いたいですし、近づきたいです。私たちは何度もつまづきます。どんな犠牲を払ってでも あなた様から目をそらすことはありませんように。

イエス様のお名前によってお祈りいたします。アーメン。

ジョー・バーネット
テキサス州 ヒューストン